

コラム 道路利用者への普及が進む吹雪の視界情報

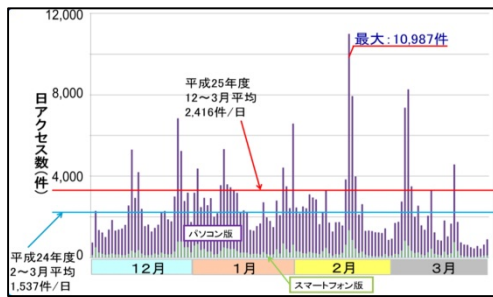


図-2 予測情報提供後のアクセス数

積雪寒冷地の冬期道路では、吹雪による交通障害がしばしば発生するため、防雪柵等の吹雪対策施設の整備が行われています。近年、急激に発達した低気圧の影響により、今まで吹雪の発生が少なかった地域でも、吹雪による交通障害が起きようになり、吹雪対策施設による対応が困難な状況も発生しています。

こうした状況では、吹雪に関する最新の情報を伝えることにより、吹雪時の道路利用者の行動判断を支援することが、極めて重要と考えられます。

寒地土木研究所雪氷チームでは、気象データから視程を推定する技術を開発し、インターネットサイト「吹雪の視界情報」で、概ね市町村単位の視界不良の現状と予測の情報提供を行うこととしました。25年度は、近年急速に普及が進むスマートフォン向けの情報提供サイトを公開し、移動中の道路利用者の利便性向上を図るとともに、視界不良に関するメール配信サービスを開始しました。

平成25年3月の暴風雪災害から一年を経て、市民向けの防災情報としてテレビやラジオ、新聞報道等で広く紹介され、(33件)、一日あたりの最大アクセス数は24年度冬期の約6,000件/日から、25年度冬期には約11,000件/日と大幅に増加し、ますます多くの方々に活用されています。



図-1 吹雪の視界情報

(上から「インターネットサイト」、「スマートフォン版」、「メール配信サービス」)